

# 長崎ペンギン水族館 ビオトープだより

長崎ペンギン水族館には、いろいろな生きものがくらす「ビオトープ」という場所があります。

ビオトープとは「生きもののすみか」といういみ。

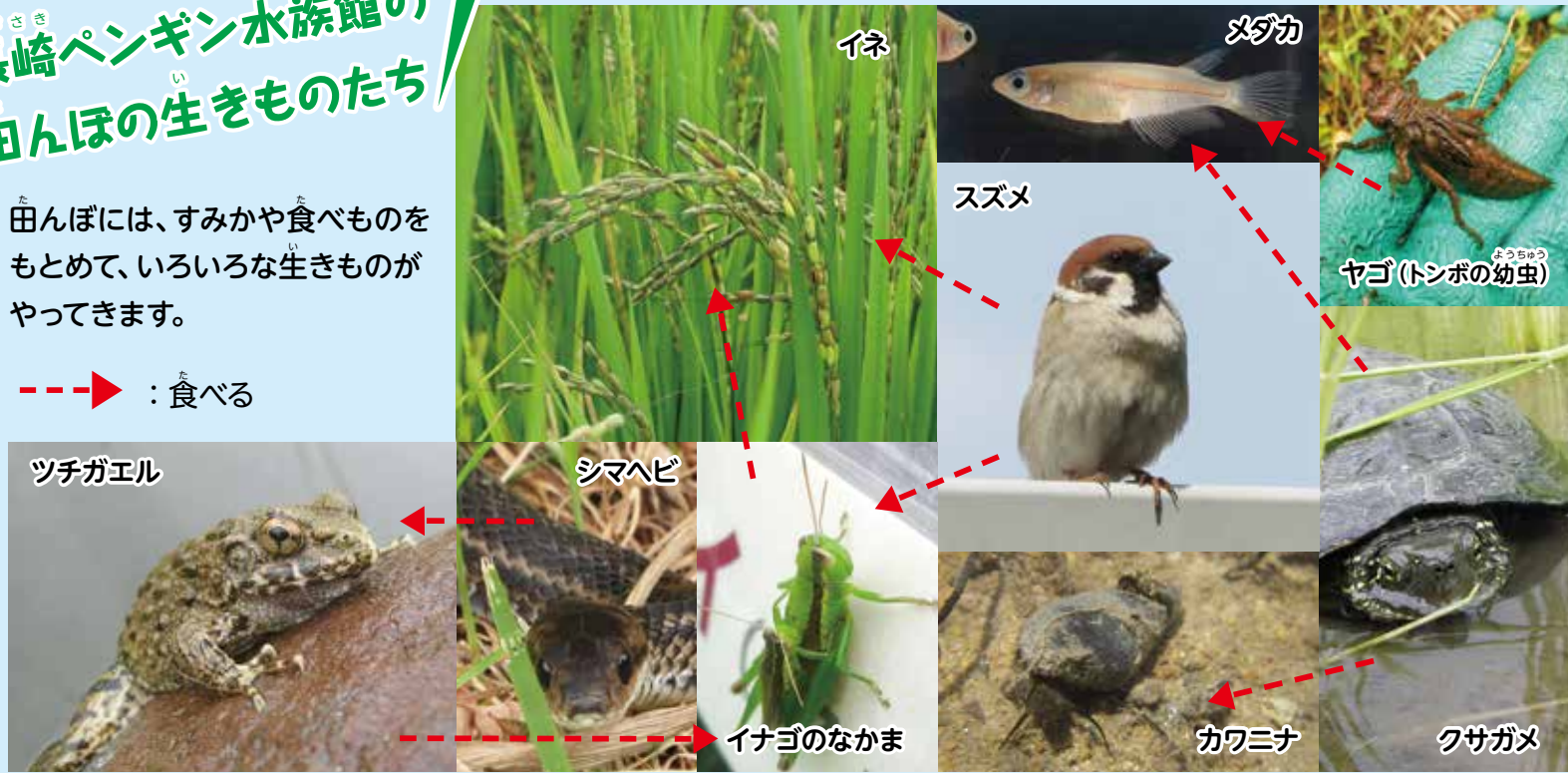
今回は、長崎ペンギン水族館のビオトープの中にある「田んぼ」について、しょうかいします。



## 長崎ペンギン水族館の田んぼの生きものたち

田んぼには、すみかや食べものをもとめて、いろいろな生きものがやってきます。

---▶ : 食べる



## すごいぞ！田んぼ ~田んぼのはたらき~

### 水をためて洪水をふせぐ

大雨がふると、一度にたくさんの水が川に流れこみ、あふれてしまうことがあります。そんなとき、田んぼが一時的に雨水をためてくれることで、水が一気に川に流れこむことをふせいでくれます。

### 防災の役割

田んぼは、わたしたちの食べものであるお米（イネ）を育てるための場所ですが、ほかにもさまざまなはたらきで、わたしたちの暮らしを助けています。

### 田んぼは 天然のクーラー

水は蒸発するとき、まわりから熱をうばいます。あつい夏、田んぼは気温を下げるクーラーのやくわりをしてくれます。

### 温暖化防止の役割



## ヒトと一緒に生きてきた田んぼの生きものたち

日本人が食べるお米の量は年々へっていて、田んぼもへってきています。お米が作られなくなった田んぼはりく地になっちゃってしまい、水辺の生きものたちはすみかをなくしてしまいます。

田んぼは、人間がもともとあった自然を切り開いて作り変えた場所で、手つかずの「自然」ではありません。でも、人間が自然に手を入れ、利用することで守られてきた生きものたちの暮らしもあるのですね。

この記事を書いた人：長崎ペンギン水族館ビオトープ担当 下村紗苗

長崎ペンギン水族館のビオトープに行ってみてね!



さらにくわしくは動画で見えね!

